巻頭言

知識の実を食べた者の責務

立教新座中学校・高等学校チャプレン　倉澤　一太郎



生成 AI と呼ばれる人工知能の活躍が大変身近に感じられるようになりました。自分が学生の頃には何かを調べるとしたら文献を探す、人を探し訪ねて話を聞く、現場に行くなどが主で、見つからない、伝手がないなどの思い出で一杯です。それがインターネットの普及で文献探しが、電子メールでの質問が可能になり良い時代になったと思っていましたが、最近大活躍の AI は尋ねれば調べて、分かり易くまとめてもくれます。さらには問題点も指摘してくれますし、書いた文章までも校正・修正してくれますが、元の文章とは比較にならない程に読み易くなると執筆者はいったい誰なのかなと考えさせられることも少なくありません。AI さえあれば人は不要になるようにも感じられ、言いようもない不安を抱かされます。

そのような思いを抱きながら世の中のニュースを見直しますと、AI に頼り切った故に不幸を招いたと思われる出来事が次々に浮かび上がります。破壊活動のために AI に助言を求めて実行した話や、家族や友人とのトラブル解決法を AI に求めて実行した結果、かえって拗れてしまった話も珍しくありません。政治指導者たちも自身の支持率や利益がどうすれば得られるのかを尋ねて、AI に提案されたままに実行しているのではと思わされる事も少なくありません。何故そんな事をしたのかと思いますが、本人たちはこれ以上ない方法だと思ったのでしょう。AI が提示する回答は質問者にとって大変分かり易く、実行し易い方法に思えるのではないかと考えます。ですが AI は私たち人間にとって本当に大切にしたいモノを理解したうえで提案してはくれないようです。破壊活動を企図する人が質問した事例では、AI に本当にして欲しかった提案は「止めなさい」です。人間関係の拗れであれば警察や裁判に訴える前に「もう一度話し合いなさい」と言って欲しかったと思いますが、AI は尋ねたこと以外については答えてくれません。効率の良い方法の提案はしてくれますが、善悪までは判断してくれないのです。

それを為すことは良い事か悪い事なのか、善悪の判断は神に食べてはいけないと禁じられた善悪の知識の実を食べたアダムとエバの子孫である人間がしなければならないこと、私たちの責任なのです。イエスは宣教活動に入る前に荒野で悪魔の誘惑を受けられますが、誘惑は人類救済のための課題であり、悪魔の言葉はすぐに課題が解決できるように聞こえる方法でした。石をパンに変えて食糧問題を解決する。絶対的な権威を後ろ盾にして自身の正義を確信する。絶大な権力を得て国家を繁栄させる。多くの指導者たちが欲して止まなかった方法ですが、それらは課題の本質的解決には繋がりません。神のみ言葉、神が求める人間の生き方、交わり方の実践によってこそ課題は解決するとイエスは教示されたのです。イエスの救いとは、イエス唯一人で人類を救うのではなく、私たち人間が協力協働することで救われる道、人間の生き方や交わり方を教え示されたことなのです。

今後 AI は私たちの社会の様々な場面で活用されることは間違いありません。ですが AI の提案は時として悪魔の誘惑となることを忘れず、AI にはできない善悪の判断をする責任については私たち人間にあることを覚えて放棄することのないようにしなければ人類の未来は暗くなります。